

第6回 小諸市学校再編計画検討懇話会 会議録

令和5年1月10日（火）開催

開催日時 令和5年1月10日(火) 18:30 ~ 20:07

開催場所 小諸市役所 第1、2会議室

(グループ討議 : 第1、2会議室、第3会議室、第4会議室)

出席構成員 川原田雅夫 小松 幸夫 塚田 直道 鹿取 俊彦
清水 信 南澤奈々絵 高橋 拓哉 神津 昌也
相原 良男 中澤 隆治 栗林 正直 小山 里恵
新津伸太郎 山田 雄司 以上14名

(欠席 : 依田 勝彦 以上1名)

事務局 教 育 長 山下千鶴子 総 務 部 長 柳澤 学
教 育 次 長 富岡 昭吾 財 政 課 長 土屋 雅志
学校教育課長 黒岩 孝幸 マネジメント推進係長 吉澤 一男
教育総務係長 小林 喜明 学校教育係長 高瀬 龍二
事 務 主 任 瀧川 宜隆 事 務 主 任 竹内 彩

株式会社 ファインコラボレート研究所

望月 伸一 土肥 千絵

1 開会

〈進行：学校教育課長〉

2 協議事項

(1) 小諸市学校再編計画（案）について

(会長)

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

今回は先進地の現地視察ということで、参加された皆様、本当に長時間、遠くまでお疲れ様でした。地元の水明小学校や芦原中学校、また他県の品川学園、八千代市の学校を視察しましたが、話だけでなく、実際に自分がその場へ行って、自分の足で歩いて感じ、丁寧な説明を聞いたり、子どもたちの様子を見たり、自分たちがこの会でこれから考えるよい参考になったと思っております。

段々この会もそのような方向に進んでいきますので、いろいろ感じられたことを遠慮なく、忌憚なく皆さんからどんどん出していただければと思います。

また、今日は年始で大変お忙しい中ではありますが、お集まりいただきありがとうございます。

第6回目の懇話会の協議事項を始めさせていただきます。本日も概ね20時を目途に終了させていただきますのでよろしくお願いします。

それでは早速ですが、協議事項(1)、小諸市学校再編計画案について、事務局より説明願います。

(事務局)

それでは説明させていただきます。

〈説明資料〉 別紙1のとおり

お手元のA3判の資料に沿って説明させていただきます。

前半部分に関しては、今までご説明をさせていただいたところになりますので省略いたします。

14、15 ページをお開きください。第4回の懇話会でお示しをさせていただきました、水明小学校に統合小学校を建てるという近接案の活用イメージをブラッシュアップして、かなり詳細に入れさせていただいております。

続きまして同様に、18、19 ページに小中併設の活用イメージを掲載しておりますので、グループ討議の中で少し頭に入れながらお話いただけたらと思います。

20、21 ページに今までの計画案1と計画案2を、まとめて書いてあります。こちらもご一読いただければと思います。

続きまして22、23 ページになります。前回から追加された資料で、こちらはコストの比較表です。今こちらでお示ししている29.5億円が、現状のコストを比較したものになります。茶色の部分の更新・改修費に関しては、現在の8校を維持した場合に、改修もしくは建て替え等をした全ての費用を20年間で分割し、それを単年に割り返した場合の費用となります。

小諸市全体で 29.5 億円かかるという試算がされており、それを芦原中学校区と小諸東中学校区に分けますと、芦原中学校区で 13.2 億円、小諸東中学校区で 16.3 億円かかるだろうという試算がされております。

茶色い部分以外のところに関しては、先生の費用など、ソフト部分が盛り込まれています。23 ページ目になりますが、芦原中学校区の 13.2 億円について、計画案 1、計画案 2 の場合の費用を比較したものになります。

真ん中の計画案 1 が近接案の場合です。こちらの場合、年間 9.9 億円かかるだろうという試算になっております。

計画案 2 の併設の場合には、年間 9 億円の費用がかかるだろうということが予想されております。

削減できた費用をうまく活用しながら、ソフト面の充実や、あとは小諸東中学校区のほうの建物の改修等が必要になってまいりますので、そういったところにもしっかりお金をかけていく必要があるという考え方になります。

続きまして、実際に開設していく 5 年間の中で、しっかりと考えていかなければいけないものとして挙げているのがこちらになります。

25 ページのところを書いてありますが、施設の使用方法について、学校施設は日曜日や夜など、使っていない時間がありますので、こういったところを上手に活用していく検討が今後必要だと考えております。

続いて 26、27 ページはバスの状況になります。現状のスクールバスと実証実験中の市内循環バスの状況を示しております。今後、統合していく上ではこういったところも改めて考えていく必要があるということで記載しております。

続いて 28、29 ページは仮設計画になります。実際の計画は計画案 1 も計画案 2 も、子どもたちの勉強を止めないでやっていかなければならないということなので、そういったところもしっかりと考えていく必要があるということで掲載をさせていただいております。

最後に 30、31 ページになりますが、こちらは小諸東中学校区の状況になります。

市内全 8 校で、こういった建物状況調査を既にも実施しておりまして、それに合わせて、例えば小諸東中学校ですと、令和 2 年度から令和 6 年度までを予定として、大規模改修工事を順次実施しております。

また、美南ガ丘小学校でもこういったことをしておりまして、芦原中学校区と合わせて小諸東中学校区も順次進めていくということになります。

私からは簡単ですが以上とさせていただきます。

(会長)

続きまして、委託事業者であるファインコラボレート研究所の望月様より補足の説明をお願いします。

(望月氏)

望月です。

まず資料の 6、7 ページをお開きください。今日の議論をしていただく部分がございまして、現状案、それから計画案 1、2 が 6 ページ側に入っております。一番上にある現状案ですと、芦原中学校に関しては現在築 22 年ですので、今後 20 年間で少なくとも大規模改修ないし

は長寿命化改修しなければいけないというのが紫色になっている状況です。

坂の上小学校は築 51 年経っていますので、今後 20 年間で少なくとも建て替えをしないといけない、それから水明小学校も築 47 年ですので同じです。また、千曲小学校は、築 40 年経っていますので、今後 20 年間で、この段階では大規模改修、長寿命化改修でよいのではないかと入れています。いずれもこの 4 校は手を入れなければいけないのが現状の大きな課題です。

これに対しまして、真ん中の部分の計画案 1 ですが、芦原中学校と統合小学校を存続させるということですので、芦原中学校は築 22 年経っていますので、改修が必要だということをおっしゃっています。それと統合小学校に関しては計画案には建て替え予定を入れておられます。

一番下の部分の計画案 2 ですが、小中併設、芦原中学校部分を小学校に転用するというところで、紫色で改修を書かせていただいています。そして一部増築をするということで、建物的にはこういうことをやっていかなければいけないということを入れていただいています。

12、13 ページですが、これに関しては大きくいじってはいません。先ほどの計画案 1 ですが、13 ページを見ていただくとおわかりだと思いますが、総合小学校と芦原中学校が近接している、離れていることをイメージしております。

また、細かい話ですが、歩車道分離やスクールバスの乗り入れの部分は強化しなければいけないというのは共通です。

14、15 ページを見ていただきますと、14 ページは統合小学校のイメージということで書かせていただいておりますが、15 ページに今の芦原中学校を長寿命化改修して、どのように小中連携できるかというイメージを入れております。13 ページにプランがありますが、今、芦原中学校には全部三つの棟がありますが、今後 9 クラスになりますので、一つの棟がいらぬのではないかということで減築する可能性もあります。

1 階、2 階、3 階と今 2 棟にしてありますが、このような形で使っていくということで、2 階の部分が中学校 1 年生、それから 3 階の部分が中学校 2 年、3 年という形で、グリーンで教室をイメージしております。それから小中連携ということで、交流スペース、円形のスペースがありますが、このような部分も交流の部分にしていこうという形で小中連携しています。

この辺の考え方は計画案 1、2 いずれも同じですが、このような絵を足させていただきました。

そして 17 ページから小中併設で、建設を一つの敷地というプランに関しましては、オレンジ色の部分は小学校に転用していく。そしてグリーンの部分ですが中学校部分を新設増築する形でプランを変えています。18、19 ページですが、これも前回ご説明させていただきましたが、この間に八千代市の小学校、中学校を改修したものをいただいていると思いますので、イメージが湧きやすいのではと思います。

18 ページの左側ですが、今の芦原中学校の既存校舎をリニューアルするにあたっての対応という形で、真ん中の既存エントランスを活用した交流スペースや小学校に転用しなければいけないので、左上の水色の部分ですが、特別教室に関しては低学年用ということで高さなどに対応したり、小学生の低学年でも対応できるようなトイレに改修していく。それから芦原中学校の特色としてユニバーサルデザインを入れております。増築をしますと全

部で四つの棟がありますが、いずれもエレベーターがついているということでバリアフリー、ユニバーサルデザインとなり自由に行き来できます。

そして1階の部分ですが、これは小学校の低学年、1、2年生が使いますので、低学年の学習環境に合うようにというような形で、教室と中庭の関係、廊下を使ったオープンスペース、多目的室での英語の授業活動など、自由にやれるというところを入れております。そして左下ですが、地域開放スペースということで、地域ボランティアとの交流ができる、このような関係を作ることができるという形にしております。

19 ページですが、2階、3階になります。2階の部分で赤い動線を示しておりますが、各四つの棟で回遊ができるという形をとっております。2階を拠点にして様々な交流が生まれるということで、2階の部分で小学校と中学校の教職員のスペースを合わせております。教員の交流から始まりまして、生徒と教員の交流、小学生と中学生の交流、小学生低学年と小学校高学年の学年を超えた交流が様々なところでできるという絵を描かせていただいております。19 ページの上側でございますが、小学校高学年・中学生の学習環境になります。低学年の学習環境は18ページの右側に書いてあります。特別教室の展開、オープンスクールでのグループ学習、ICTに対応した教室など様々な学習環境が求められております。それから一番右側にありますが、様々な学習形態ということで、オープンスペースでの自学自習、オープンスペースを使ったボランティアによる学習サポートなど、見える化しているという状況です。

20、21 ページですが、計画案のまとめになります。基本的に計画案1と2の考え方は同じです。ただし、計画案1に関しては敷地が離れておりますので、特に小学校と中学校の交流は常時できるということではなくて、1か月や2か月に1回とか、そういう形で定期的に行っていくという違いがあるということを書かしていただいております。

いずれにしても現状よりスクールバスの停車の問題、歩車道分離やセキュリティの確保については、今より十分対応できるということで入れさせていただいております。

22、23 ページについては、先ほどお話がありました。コストについて今見直しをしています。学校にかかるお金ですが、22 ページの一番左側に書いてあります。施設に関しましては更新・改修や維持管理、光熱水費が施設にかかるお金です。それから管理運営ということで、学校運営費、教育振興、教育支援事業など様々な事業にかかるお金があります。それからICT関連の費用。また、教職員の人件費ですが、県費が先生の人件費、市費で栄養士や司書などその他の人件費を負担している。そして給食関連の費用、スクールバスは現在、首長部局で実施しているということで、これを年平均しますと、約30億円弱が小諸市全体の教育にかかるお金です。それに対しまして芦原中学校部区でかかっているお金が13.2億円、小諸東中学校区が16.3億円ということで、今現在のお金を試算しました。

それに対しまして計画案1、2は、まだ施設のお金だけです。先ほどご説明しましたように、現状ですと4つの学校を建て替える、ないしは改修しなければいけないというところから、計画案1、2の内容の施設のお金を計上いたしまして、統合することによっての人件費、管理運営費の見直しなど、このようなところで削減効果があると思われまます。

この削減効果のところを課題解決ということで、スクールバスの問題、コミュニティスクール化等々に使っていかなければいけない。それでさらに適正規模、適正配置の補助金や、集約化、複合化の補助金などを入れながらお金を弾き出していくという形になります。

ここで1回、計画案1、2の議論をしていただいて方向を出していただく。

24、25 ページですが、校地を確定して、それと同時に一緒に考えていかなければいけないのが二つの中学校区の地域拠点です。コミュニティスクール化、品川学園を見ていただきますと非常に充実していることはおわかりいただけると思います。

このようなところの対応、スクールバスの導入、それから開校令和 10 年に向けてどのように仮設校舎等々を作っていくのか、このような検討を一緒にやっていかなければいけないということになります。

特に地域拠点の導入は、その右側に地域実態マップと書いてありますが、今、小諸市ですと、公共施設は全部で 21.6 万平米あります。そのうち学校が 5.8 万平米あり、全体の 27% ということになる。

これは令和 3 年度であります。今人口から割りますと、住民 1 人当たり 5.2 平米ぐらい公共建築を持っている。これは全国平均から比べますと非常に多い状況です。こういうところをいかに有効活用していくか、これも地域拠点作りの大きな問題点になります。

25 ページですが、いろいろ検討してみますと地域拠点導入の必要性ということで、先生の負担軽減、地域ボランティア等の活動拠点を確保して学校を地域が支える、公共施設との連携で施設の維持管理の効率化とコストの最適化を図る。このような地域拠点として求められる機能を導入することによって、地域の活動するスペースが確保できて、導入機能に基づき学校サポートが可能になります。下に例を入れておりますが、例えば地域の拠点に地域図書館機能を入れることによって、ボランティアの居場所を確保する、地域図書館として学校が使える、それからコミュニティ機能として様々なコミュニティの拠点として活用することができる。

このように、学校へのサポートということで、右下にございますように、図書館司書による学校サポート、教材作成サポート、プログラミング学習等のサポート、地域ボランティアによる学習サポートといったメリットが出てくるのではないかとということで書かせていただいています。

26 ページですが、スクールバスについてです。水明小学校のスクールバスに関しましては、今約 80 名が利用していることが書いてありますが、水明小学校の児童 286 名の約 28% に当たります。2 路線で登校 3 便、下校 4 便と書いてあり、費用的なものがここに出ております。それから実証実験中の市内循環バスを使う子どももあり、これが現状になります。これを何とか改善していくというのが大きな目標になります。

28、29 ページですが、仮設校舎も重要な視点になると思います。例えば水明小学校ですと、大きく二つ考えられます。水明小学校は今 280 名と書いてありましたが、その子どもに 3 つの学校に移動してもらって、学校を空にして解体していくという方法が考えられますし、今のグラウンドの部分に仮設校舎を建てるという 2 つのやり方が考えられます。一番上に書いてありますが、活用面とコストの両面合わせてどのようにしていくのかも判断してもらいます。

29 ページの芦原中学校ですが、真ん中に図を入れましたが既存の学校の部分を活用しながら増築をしていくやり方と、グラウンドの部分に仮設校舎を建てて増築していくやり方と大きく 2 つ考えられます。これもやはり活用と、コストと合わせて考える問題があります。

30、31 ページです。今回、芦原中学校区は再編計画、小諸東中学校区は地域の拠点機能を導入していくということで、小諸東中学校区の 4 つの小中学校の改修内容ないしは予定を入れさせていただいています。以上でございます。

(2) グループ討議

(会長)

ありがとうございました。

続いてグループ討議に入りますが、実施方法について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

グループ討議について私から簡単に説明をさせていただきます。グループ討議に入る時間が遅くなってしまいましたが、ぜひしっかり議論いただきたいと思うので、予定通り時間をとらせていただきたいと思います。

グループ討議ですけれどもお手元の次第をご覧くださいながらお願いいたします。

こちらでグループ1、2、3に割り振りをさせていただきました。変更点ですが、グループ2を委員会室とさせていただきましたが、同じフロアにあります第4会議室が使えるのでそちらに変更になります。

グループ1はそちらに用意してある場所になります。グループ2が第4会議室、グループ3が第3会議室で、いずれも同じフロアにあります。事務局の担当者がおりますので、ご案内をさせていただきます。

検討内容につきましては、事前にお伝えさせていただきましたとおり、運営面、それから施設面の課題、期待することについて、計画案1、2のそれぞれに関して皆様のご意見をいただきたいと思います。

書記に関しては事務局が入りまして、まとめも行いますので、皆様からは気兼ねなくご意見をいただければと思います。

ご討議いただく時間を40分とさせていただき、7時45分を目途にお願いできればと思います。こちらに戻っていただきまして、事務局で皆さんからいただいたご意見をまとめて発表をさせていただきます。

それではご移動をお願いします。

〈移動後グループ討議〉

(会長)

皆さんお疲れ様でした。

各グループで話し合われた意見について事務局より発表いただきます。

〈グループ討議まとめ〉 別紙2のとおり

(会長)

皆さん、活発なご議論をいただき、ありがとうございました。

(3) 専門家意見

(会長)

次に、専門家のご意見をいただきたいと思います。

建築家の立場で小松構成員から計画案 1、2 についてご意見をお願いいたします。

(小松構成員)

近接案については、今とあまり変わらないので心配は少ないと思います。併設案について、不安というかよくわからないことがあるのでいろいろなご意見が出る気がします。これは、私にはもう専門外の話であって、どのような教育をするのか、どのような運用をするのかというのは、教育委員会あるいは先生方で新しく作っていただくしかないです。そのようなことに対する不安は当然ですが、皆さんが感じになる部分があるということだと思います。

どちらかという、新しいものに挑戦するのか、安全を考えて従来通りでいくのかという議論だと思いますけれども、ただ、この辺の話は昨年までの議論である程度決着がついてると理解しますので、ここではそれ以上は申し上げません。

施設面という、やはり計画案 2 だと敷地が狭いのではないかという意見、当然 2 つ学校があるべきところを 1 つのところに収めてしまおうというわけですから、敷地の広さで制約が出てくるのではないかというのは、やってみないとわかりません。少し不安にはなるところではありますが、交流などいろいろなことを考えると、施設を一体化しておくことがやはりメリットとしては大きいだろうと思います。

将来的な費用も含めて、費用面で 2 つ学校があるよりは、1 つのほうがコスト的には安くなるだろうと思っています。

ですから、計画案 2 を仮に採択するとしても、ファインコラボレート研究所が作っている今の計画案はそのままできるわけではなくて、おそらくもっといろいろ練り上げてやらないといけないと思います。

その中で多分いろいろな事例が出てくると思っていますので、あまり悲観的になることはない、これは私は保証していいと思っています。

(会長)

ありがとうございました。

施設面のいろいろな課題があるわけですが、これからみんなで、いろいろと考えていく中でよりよいものを作っていくらよいかというお話でした。ありがとうございました。

(4) その他

(会長)

それでは事務局から市民説明会について説明をお願いします。

(事務局)

私から市民説明会について説明します。お手元の回覧と書いてある資料になります。市民説明会を中間の段階でやってほしいというご意見を多くいただきました。皆様にご了解をいただきまして、この日程で進めさせていただきたいと考えております。

今月の 1 月 24 日を皮切りに、2 月 2 日まで各小学校で実施をいたします。時間はいずれも 6 時半から 8 時までということで、説明をさせていただき、計画案 1、2 に対してご意見

をいただく会を設けたいと思っております。

懇話会の皆様につきましては、一般で参加できる日があれば参加していただければ結構であると思っております。基本的な説明は事務局でさせていただきます。

回覧と書いてあるとおり、隣組回覧、それから PTA の保護者の皆様、幼稚園保育園の保護者の皆様に対してのチラシを配布させていただきますので、ご承知おきいただければと思います。

(会長)

ありがとうございました。

以上で本日の協議は終了とさせていただきます。

次回は今日皆さんのご意見、ご要望等をもとに、事務局からもう一歩進んだ提案が出されると思いますので、次回もよろしくお願ひしたいと思ひます。

3 閉会

〈進行：学校教育課長〉